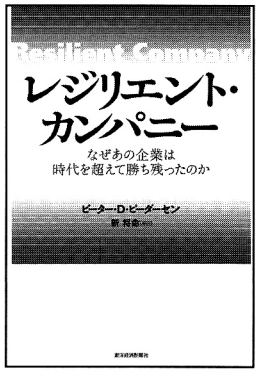
『レジリエント・カンパニー』

■　ピーター・D・ピーダーセン　著

■　東洋経済新報社



著者はデンマーク人で、日本で20年以上世界と日本をつなぐ仕事に関わった体験に基づき、本書を執筆した。彼は、レジリエント・カンパニーを「危機に耐性があるだけではなく、事業環境の変化を発展や成長のバネにでき、しなやかさを発揮できる会社。社員と顧客をとりこにし、社会から広く支持、応援される会社」と定義している。レジリエントを“しなやか”と訳しているが、強風にも折れない竹に例えており、名訳である。

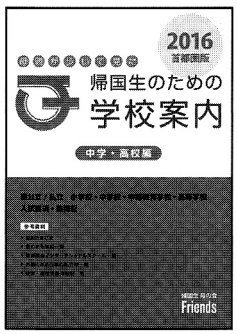
レジリエント・カンパニーの行動パターンには３つの特徴＜①アンカリング（Anchoring：よりどころ＝社員と顧客などを引きつける魅力）ができている、②自己変革力（Adaptiveness）が高い、③社会性（Alignment）を追及している＞がある。これらを７つの行動パターンに分類し、P&G、ネスレ、タタ・グループ、GEなど世界のレジリエント・カンパニー20社の事例で説明している。この部分が最も面白い。

さらに彼は、前述の３つの特徴に関連付けて、日本企業に対して、志と哲学は生きているか、創造性をそぎ落していないか、社会との向き合い方は中途半端になっていないか、という問題を提起している。本書を読みながら、古（いにしえ）の近江商人の行動理念である「三方よし――売り手よし、買い手よし、世間よし」は、レジリエント・カンパニーの３つの特徴に通じると思った。（中島）（18.8㎝、286ページ、1600円＋税、2014年12月刊）

『2016年度首都圏版　母親が歩いて見た 帰国生のための学校案内――中学・高校編』

■フレンズ 帰国生 母の会　編・発行

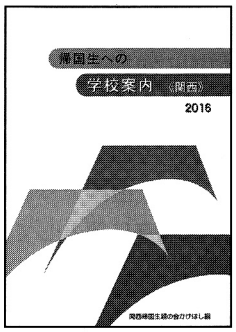
首都圏の国公私立学校約300校を対象にした学校案内。帰国生の母親たちが実際に訪問してまとめている。首都圏には学校が多く帰国時に選択に悩むが、参考になる１冊だ。



学校情報に加え一般生、帰国生別の入試情報、応募情報も詳しく掲載しており、受験の際も利用しやすい。入学後の対応、突然の帰国に備えた編入学、転出者の復学など帰国生の受け入れ情報が充実している。また各校３人程度の帰国生へのインタビューを掲載している。生徒たちの志望動機、入試、現在の学校生活についての体験は、実際に訪問したフレンズ担当者の感想と併せて読むと、教育方針だけでは分からない学校の実際の雰囲気を理解しやすい。（海）（30cm、457ページ、3400円＋税、2015年９月刊。HPから申込み可。そのほかフレンズオフィス・一部書店で販売。詳細は http://www.ne.jp/asahi/friends/kikoku/book.html）

『帰国生への学校案内≪関西≫ 2016』

■関西帰国生親の会かけはし　編・発行



関西圏の小中高校約70校を対象にした学校案内。「関西帰国生親の会かけはし」のメンバーが実際に訪問しまとめた情報を掲載している。

今回はグローバル人材とは何か、帰国生はそのような人材か、などの疑問に答えるべく「帰国生とグローバル人材」を編集テーマにしている。セミナー、学校へのアンケートレポート、学校訪問時の先生の思いなどからグローバル人材像を探っている。出国から帰国までの学校基礎知識、帰国生こぼれ話（帰国後泣き笑いエピソード集）、お母さんのお悩み解決（先輩帰国ママの場合）など、かゆいところに手の届くような内容も多い。学校紹介は表の活用、ていねいな訪問レポートなど分かりやすい。（海）（30cm、374ページ、2900円（税込）、2015年９月刊。問い合わせはかけはし事務局まで。詳細は http://www.ne.jp/asahi/kakehashi/kikoku/）